



ベルボン製品を正しく安全にお使いいただくために

安全上のご注意



必ずお守りください




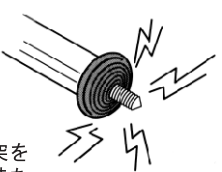









お使いになる人や他の人への危険、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性・または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し説明しています。

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

 警告		 注意	
			
スパイク付石突を備えた三脚を持ち運ぶときは、安全のためスパイクを出さないでください。死亡や大ケガの原因となります。	脚を開閉するときは、十分に注意してください。あやまって指をはさむとケガにつながります。慌てずによく確かめて操作してください。	三脚にカメラを装着したままでの移動は、お避けください。予想以上の力が加わった場合、カメラが落下する恐れがあります。	三脚の自重の2倍を超えるカメラの使用は、安定性を損ないますのでお避けください。カメラブレの原因となったり、三脚が転倒する恐れがあります
			
カメラを載せたまま脚の伸縮調整や雲台の操作をするときは、カメラ本体を必ず手で支えながら行ってください。三脚やカメラが不意に動き、カメラを破損したり手を三脚にはさみケガをする恐れがあります。	ぐらついた台の上や傾斜面など、不安定な場所で使用する場合は十分に注意してください。特に高位位置での使用の場合、頭や足の上などに落下すると、死亡や大ケガにつながる恐れがあります。	各々のネジや固定レバーは、必要なとき以外は確実に固定してご使用ください。ネジや固定レバーがゆるんでいると、三脚の転倒やカメラ破損の原因となります。	三脚や雲台各部へのオイル・グリス等の補給はしないでください。十分な性能が発揮されなくなる場合があります。 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さなお子様の手の届く所には、設置・保管しないで下さい。手をはさんで倒れたりして、ケガをする恐れがあります。 ● 三脚は、金属部品やカーボン繊維で構成されておりますので通電します。電気の側や高圧線の近くでの使用は避けてください。また、落雷の恐れがある場合は絶対に使用しないでください。 ● 三脚の上には絶対に腰掛けたり乗ったりしないでください。転倒し死亡や大ケガにつながります。 ● 寒冷地でご使用される場合は金属部が凍結する恐れがありますので、素手で操作しないでください。 		<ul style="list-style-type: none"> ● カメラを取り付けた状態で、不安定な場所に放置したり立てかけたりしないでください。転倒の恐れがあります ● 夏季など高温になる自動車内等には放置しないでください。オイル漏れや故障の原因となります。 ● 寒冷地でご使用される場合は十分な性能が発揮されない場合があります。特にビデオ用オイルフリード雲台では、パン・ティルトの動作が重くなったり動かなくなることがあります。 ● 三脚を携帯するときは、部品の脱落防止のため各々のネジ等を、しっかり締めつけて持ち運びしてください。 ● 写真機、ビデオ、望遠鏡等での撮影・観察以外の目的で使用しないでください。

お手入れについて

- ご使用後は、必ず湿った布で汚れを拭きとった後に、乾いた布でよく拭いて保管して下さい。特に海岸および温泉地でのご使用後は、そのままの状態では放置すると錆びや故障の原因となります。
- 脚パイプに水や砂がついたまま脚をたたむと、重なった脚パイプの隙間に詰まってしまう、伸縮が固くなったりできなくなったりする恐れがありますのでご注意ください。
- 清掃の際はシンナー等の薬品は使わないで下さい。

アフターサービス

- 修理または部品を紛失した場合は、販売店か弊社サービス部へ直接お問い合わせください。本製品の性能部品は、製造打ち切り後5年を目安に保有しております。※この期間後であっても修理可能な場合もあります。
- ※製品改良のため、予告なしに仕様・デザイン・諸元などを変更することがありますのでご了承ください。

ベルボン お客様ご相談センター
0551-25-6155

便利メモ

※おぼえのため記入されると便利です。

お買い上日	年 月 日
販売店名	
(電話)	

Velbon

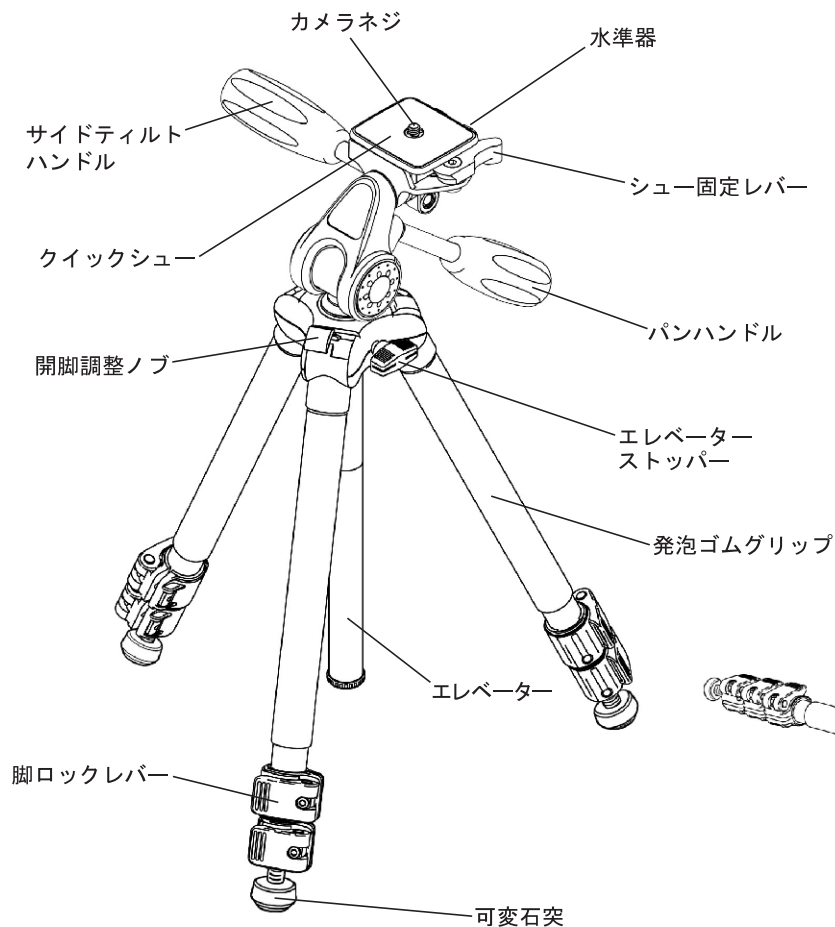
エル・カルマーニュ
El Carmagne 435 / 445

取扱説明書

正しく安全にお使いいただくため、
 ご使用前に必ず本書をよくお読みください。
 お読みになった後は、必ず保存してください。

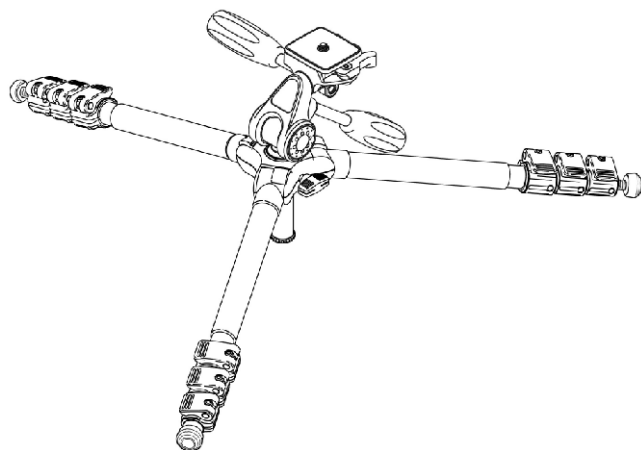
各部の名称

このたびは、ベルボン三脚をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。



エル・カルマーニュ
El Carmagne 435

エル・カルマーニュ
El Carmagne 445
(ローポジション)



※ローポジションはどちらの機種でも可能です。

仕様

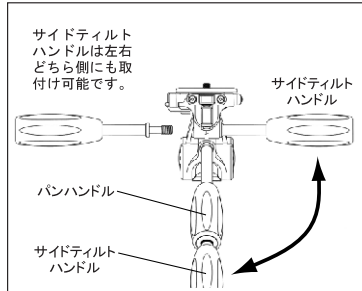
	El Carmagne 435	El Carmagne 445
雲台	PHD-41Q	PHD-41Q
全高	約 mm	約 mm
エレベータースライド*	約 mm	約 mm
最低高	約 mm	約 mm
縮長	約 mm	約 mm
質量	約 kg	約 kg
脚パイプ径	22・19・16mm	22・19・16・13mm
段数	3段	4段
最大積載カメラ質量	2.5kg	2.5kg

エル・カルマーニュ ★ El Carmagne 435 / 445 は……

脚素材には極めて軽く剛性の高いカーボンファイバーを使用。雲台には「左右両サイドティルト」機構を採用し、横方向へ左右90度カメラを傾ける操作（縦位置・サイドティルト）が可能。ストロボの位置を選びません。超小型・超軽量のボディは旅行や登山に最適。また脚の伸縮・固定方式はレバーロックなので、わずかな力で簡単に操作できます。脚先端には可変石突を装備しており、地面の状況によりゴム石突とスパイクを交換することが可能です。

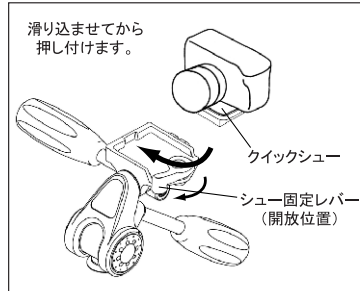
※記載の数値は平均的な値です。三脚は組み合わせ部品で構成されておりますので、記載数値と若干異なる場合があります。

雲台の使いかた①



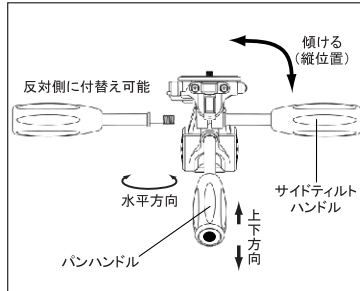
サイドティルトハンドルをパンハンドルから外し、カメラ側面の穴(左右どちらでも可能)にネジ込んでご使用ください。ケースに収納するときは元のようにサイドティルトハンドルをパンハンドルに取付けてください。

雲台の使いかた②



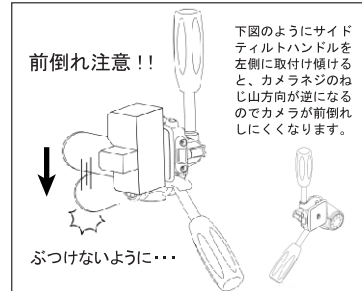
シュー固定レバーを開放位置にし、外したクイックシューにカメラを取付けます。次にクイックシューをレバー側から斜めに滑らせるように取付け、下に押し付けると半自動固定されます。後は手でレバーをしっかりと締めてください。外すときは逆の手順を行ってください。

雲台の使いかた③



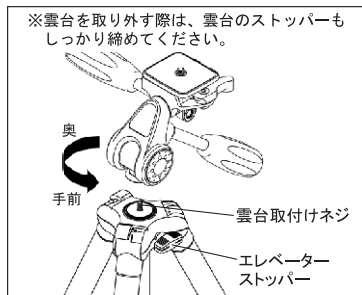
パンハンドルを回しゆるめると、カメラの上下動操作と同時に左右水平回転操作ができます。サイドティルトハンドルをゆるめると、カメラを傾ける操作(縦位置)ができます。サイドティルトハンドルは反対側に付替える事ができ、左右どちらの方向にもカメラを傾けることが可能。

縦位置撮影時の注意



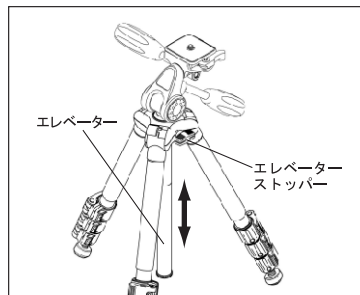
縦位置撮影の際、レンズの重いカメラ等を使用すると、レンズの重さでカメラネジがゆるむ方向に回り、カメラが前倒れして破損する恐れがあります。その場合はサイドティルトハンドルを反対側に付け替え、傾ける方向を逆にして下さい。

雲台を交換するには



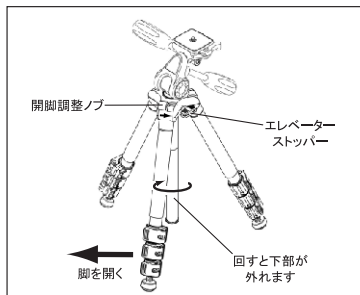
※雲台を取り外す際は、雲台のストッパーもしっかり締めてください。
雲台を外す場合はエレベーターストッパーをしっかり締め、雲台全体を反時計回りにまわって外してください(上図矢印方向)。他の雲台に交換することができます。
※雲台取付けネジはUNC1/4サイズ(細ネジ)です。

エレベーターの昇降



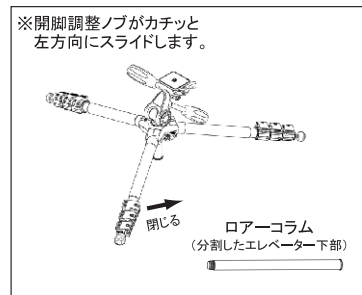
エレベーターストッパーを左に回してゆるめると、エレベーターの昇降ができます。必要な位置でストッパーを右に回して固定します(エレベーターの操作時は必ず機材を手で支えながら行ってください)。

開脚角度の調整①



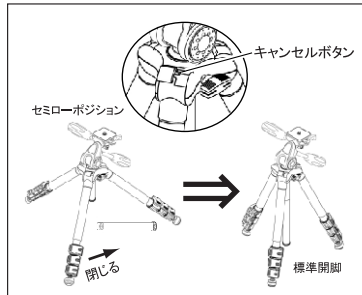
脚を折りたたんだ状態で開脚調整ノブをカチッと止まる所まで右方向へスライドさせます。その状態で脚をいっぱい開くとローポジションとなります(エレベーターはエレベーターストッパーを締めてから下部を回すと分割できます)。

開脚角度の調整②



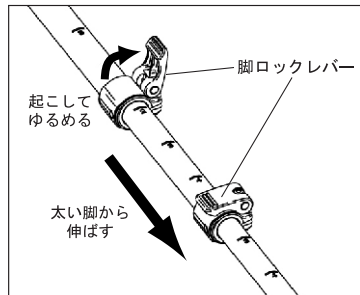
ローポジション(上図イラスト)にした脚をゆっくり閉じていくと、開脚調整ノブが自動的にカチッと左方向へスライドします。この位置がセミローポジションとなります。

開脚角度の調整③



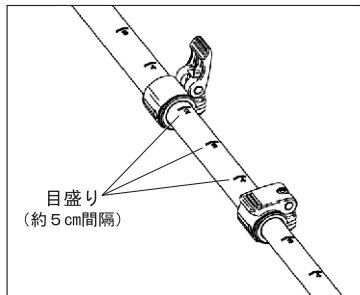
さらに脚を閉じていくと、再び開脚調整ノブが自動的にカチッとスライドし標準開脚に戻ります。なお誤ってノブをスライドさせてしまった時にはキャンセルボタンを押すことによって元の位置に戻すことができます。

脚の伸縮



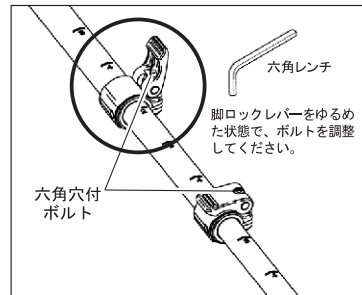
脚を伸ばす時はレバーを起こしてロックをはずし、上の段から順に伸ばします。脚の長さが決まったらレバーを押さえてロックします。縮めるときは逆に下の段から順にしまってください。

目盛りについて



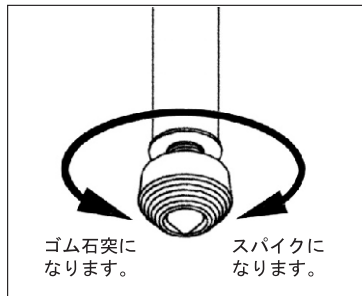
脚パイプには約5cm間隔で目盛りがふられています。目線位置など、すばやく決まったところまで脚を伸ばす際の目安とすると便利です。
※この目盛りはあくまで目安であり、精密に計ってふられているわけではありません。

脚ロックレバーの調整



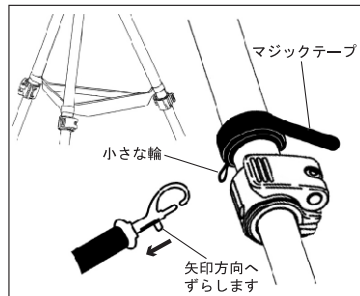
長期間の使用等で、脚ロックがゆるくなった場合には、上図の六角穴付ボルトを付属の六角レンチでしめて調整します。六角穴付ボルトをしめすぎると、脚の伸縮がしづくなりますのでご注意ください。

可変石突



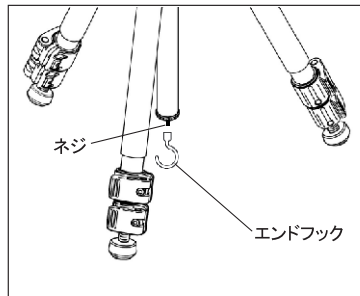
脚先端部は可変石突になっています。設置する地面の状況に応じて先端部を回し、ゴム石突とスパイクを交換してご使用ください。なお携帯時は危険ですので、必ずゴム石突にしてください。

ストーンバッグ



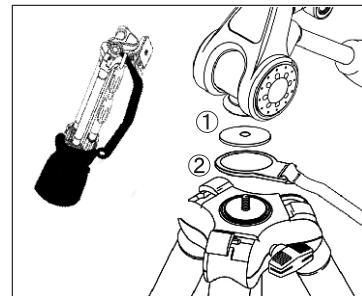
風の強い場所では、重し入れとしてストーンバッグをお使いください。バンドの小さな輪ができていてる方を内側にして、上図の部分にマジックテープでつきく巻きつけます(三箇所とも)。その輪にストーンバッグのフックを引っかけて使用します。

エンドフック



付属のエンドフックは、上図のようにエレベーター下部のネジに取り付けて使用します。カメラバッグ等を吊り下げ、安定性を確保します。吊り下げたバッグが風にあおられるとブレの原因になりますので、ベルトは出来るだけ短くして吊り下げてください。

レグポシエット



雲台と三脚の間に①ストラップワッシャ、②ストラップリングをはさみます。持ち運びの際には、必ずポシエット部が下側に来るようにしてください。